

2017年3月期
第2四半期
決算説明会

2016年12月6日

リバーエレクトック株式会社

(JASDAQ 6666)



音叉型水晶振動子

TFX-04C (1.6×1.0×0.5mm Max.)

TFX-03C (2.0×1.2×0.6mm Max.)

世界最小かつ低損失を実現 (2016/12/6 当社調べ)

1. 2017年3月期 第2四半期決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2. 2017年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

1. 2017年3月期 第2四半期決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基



2017年3月期 第2Q決算概要

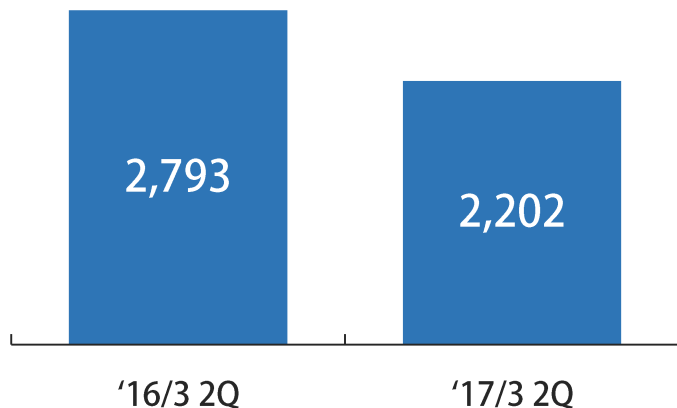
(単位：百万円)

	'16/3 2Q 実績	'17/3 2Q 予想 ('16/5/12)	'17/3 2Q 実績	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上高	2,850	2,524	2,219	△631	△22.2%
売上原価	2,286	—	1,828	△458	△20.1%
販管費	556	—	527	△29	△5.2%
営業利益	7	△44	△136	△143	—
経常利益	16	△50	△193	△210	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	9	△54	△201	△211	—
EPS（1株当たり利益）	1.34	△7.44	△27.31	△28.65	—
期末為替レート （対USドル）	122.45円	115.00円	102.91円	—	—



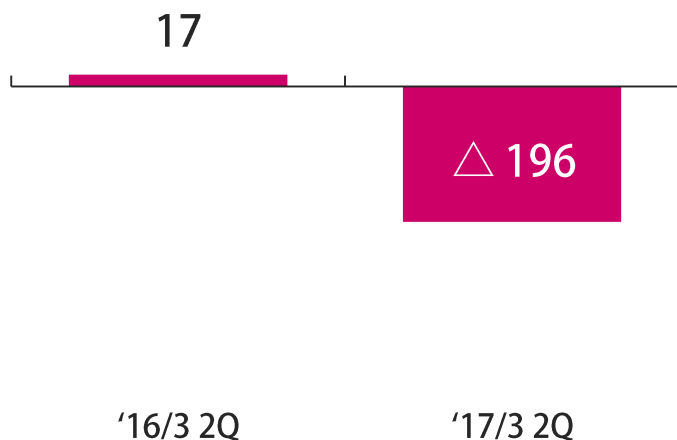
売上高

(単位：百万円)



経常利益

(単位：百万円)



対前年同期比 増減

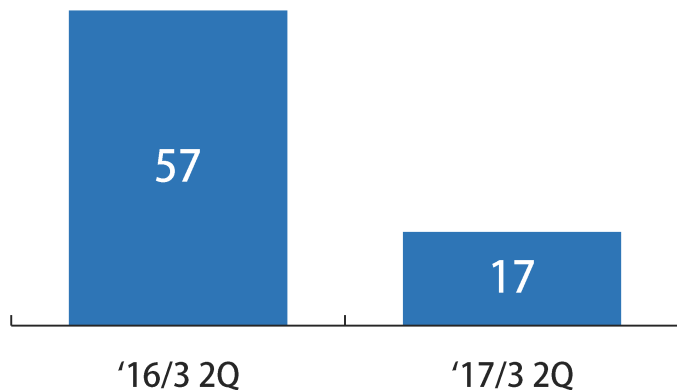
売上高	△591百万円	(-21.2%)
経常利益	△213百万円	(-)

<増減要因>

- ハイエンドスマートフォン向けの受注減少及び市場競争の激化、並びに円高による為替換算の影響により大幅減収
- コスト削減に努めるも減収及び為替差損の影響を補えず経常損失

売上高

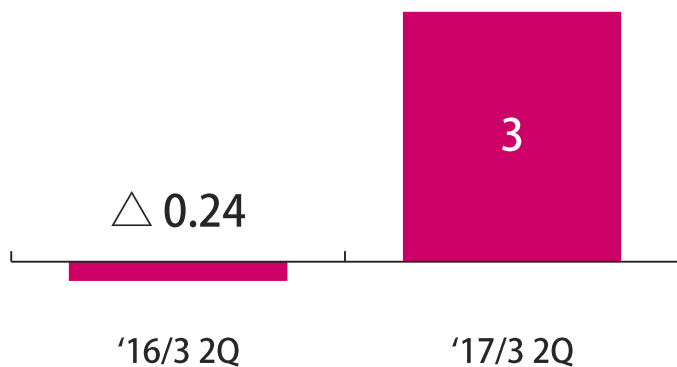
(単位：百万円)



対前年同期比 増減		
売上高	△40百万円	(-70.1%)
経常利益	+3百万円	(-)

経常利益

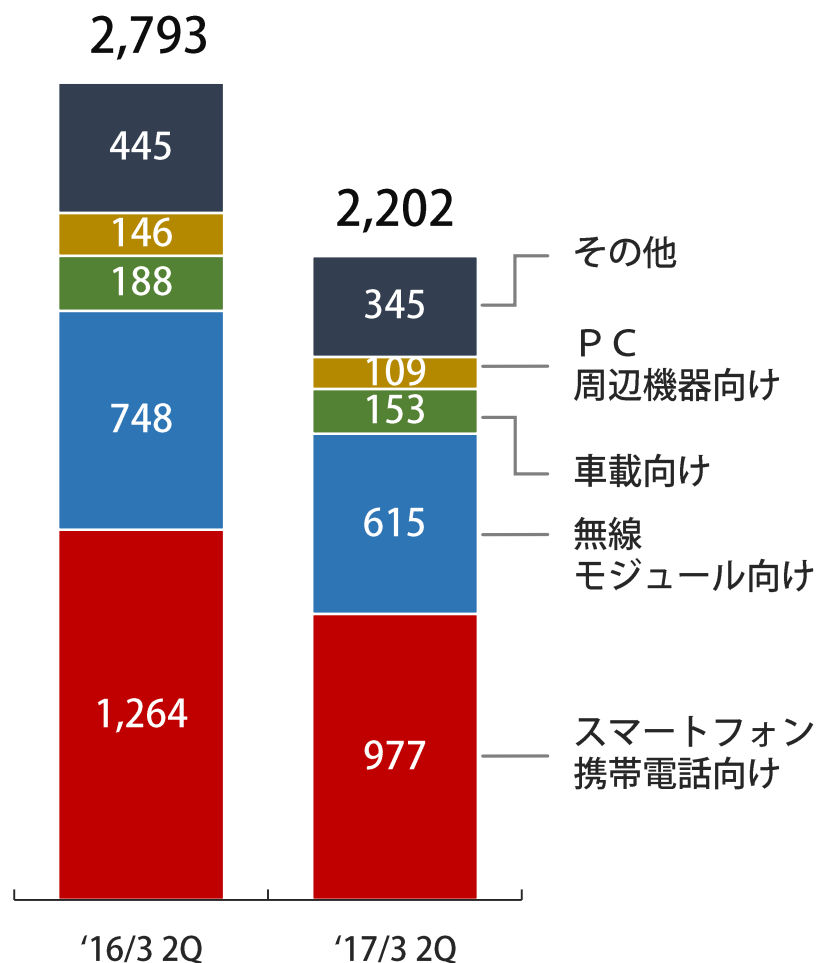
(単位：百万円)



<増減要因>

- 前年同期に好調であった無線通信向けの需要が一巡した影響から減収
- 減収であったものの、諸経費の抑制に努めたことにより経常黒字

(単位：百万円)



■ スマートフォン・携帯電話向け

前年同期比－286百万円（－22.7%）

➢ハイエンドモデルの需要の大幅な減少と円高による為替換算の影響

■ 無線モジュール向け

前年同期比－133百万円（－17.8%）

➢スマートフォン向けの価格下落及び為替換算の影響

■ 車載向け

前年同期比－34百万円（－18.4%）

➢カーナビ向けの受注が減少

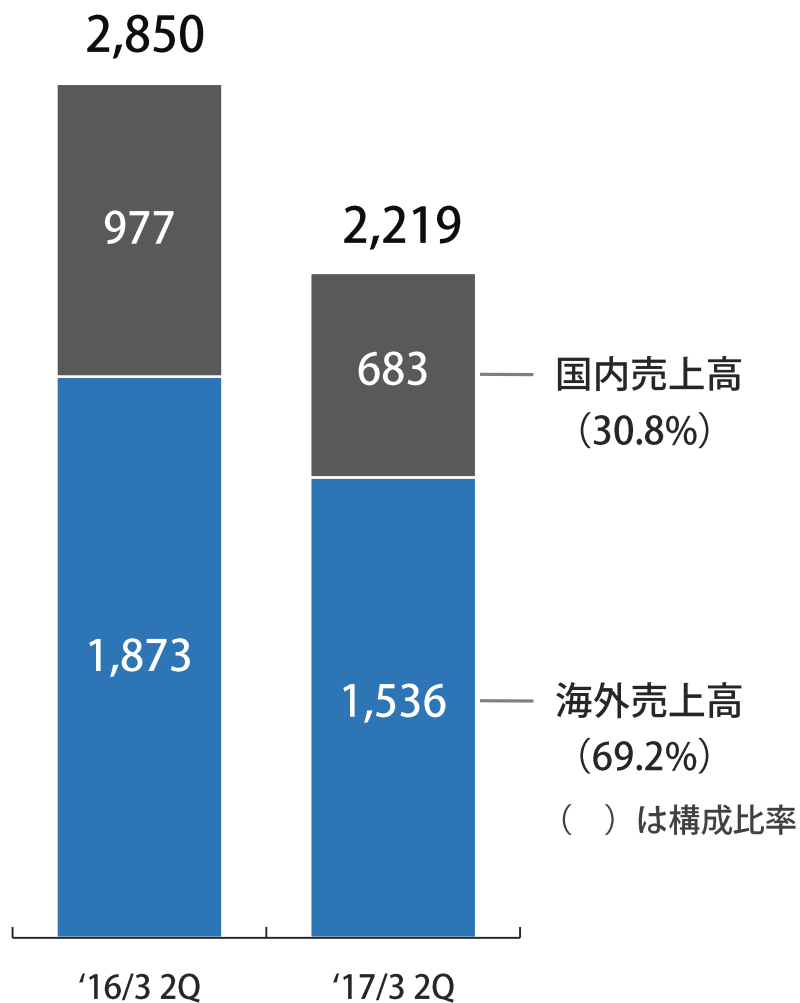
■ PC・周辺機器向け

前年同期比－36百万円（－25.1%）

➢記録メディア向け（HDD/SSD）受注が減少



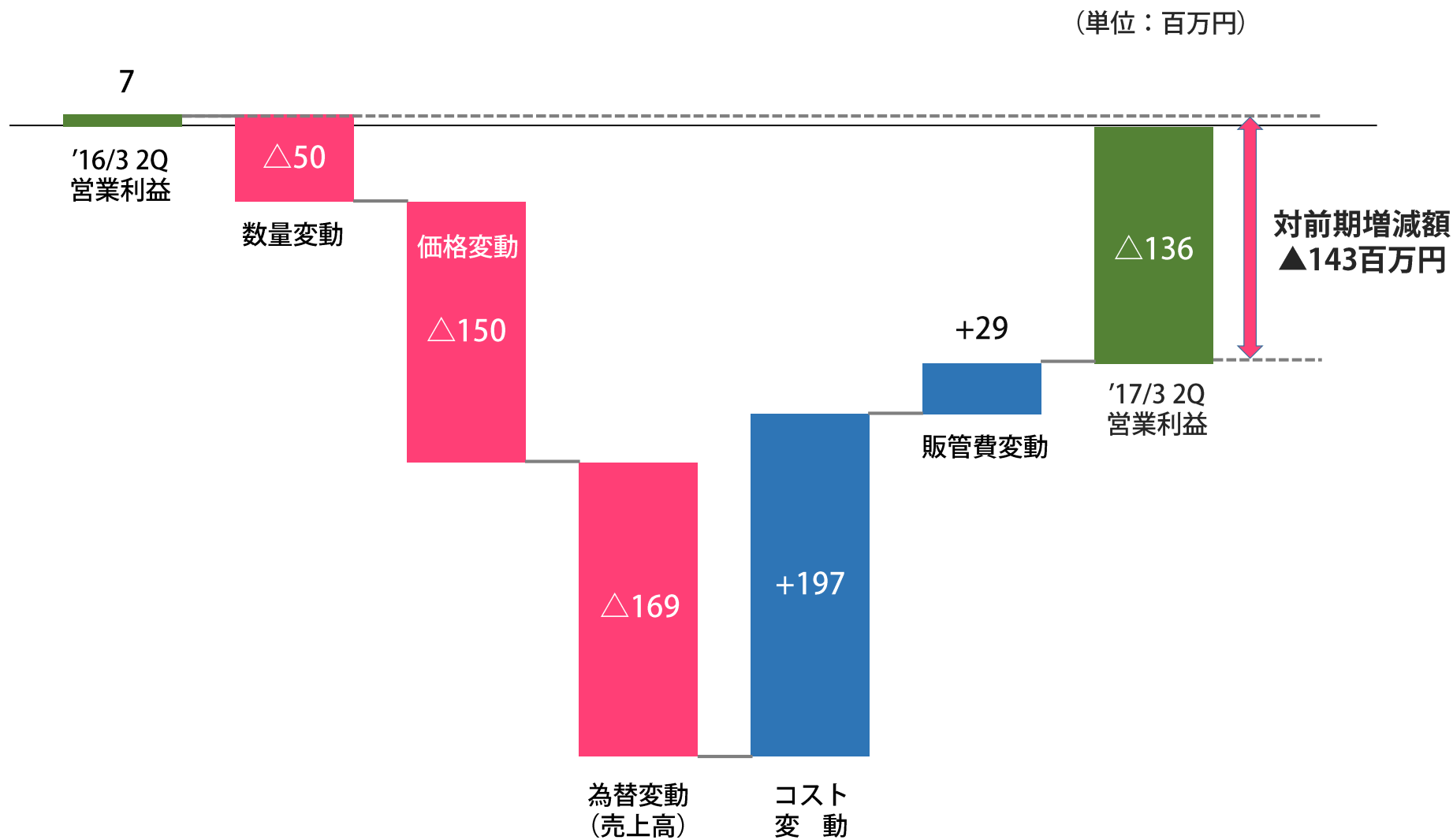
(単位：百万円)



対前年同期比 増減	
海外売上高	△337百万円 (－18.0%)
国内売上高	△294百万円 (－30.1%)

<増減要因>

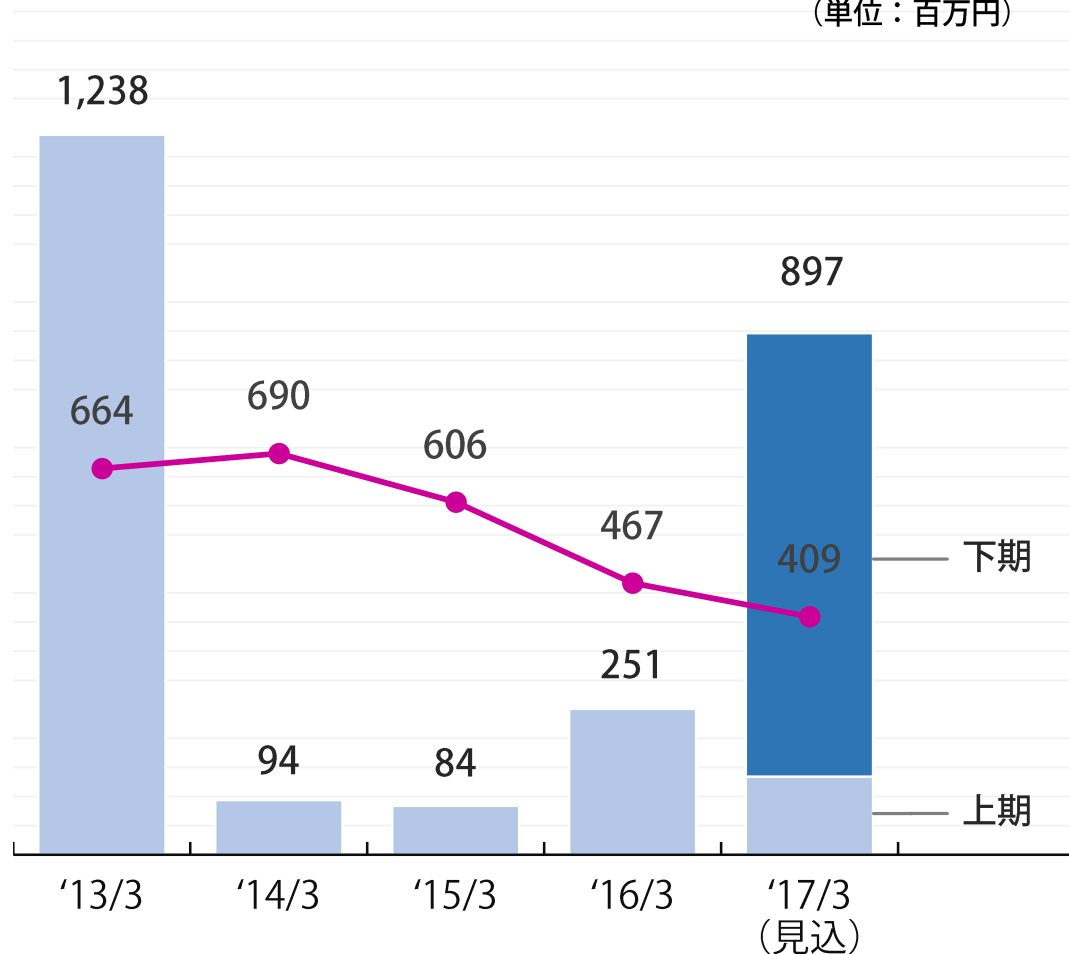
- 海外売上高はスマートフォン、無線モジュール向けが減少
- 国内売上高はスマートフォン向けが減少





■ 設備投資 ● 減価償却費

(単位：百万円)



➤ 当期は新製品等の生産増強を中心に9億円の投資を計画



(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前純利益	△193
減価償却費	+201
売上債権の増加額	+24
たな卸資産の増加額	△113
仕入債務の増加額	+57

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増額	+127
長期借入れによる収入	+520
長期借入金の返済による支出	△431
長期未払金の返済による支出	△37

フリー
キャッシュ・フロー

△22

△255

△277

145

△64

現金・同等物
に係る換算差額

911
現金・同等物
の期首残高

投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入による支出	△479
定期預金の払戻による収入	+448
有形固定資産の取得による支出	△222

715
現金・同等物
の期末残高

※フリーキャッシュ・フロー：営業活動によるCF+投資活動によるCF

2. 2017年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男



事業環境

- 世界経済は、新興国における景気下振れや英国のEU離脱問題など、先行き不透明な状況が続く
- 為替は、米国大統領選挙後から円安の動きとなっているが、新政権の発足以降は流動的
- スマートフォン市場は、依然として成長鈍化の状態が続く

業績見通し

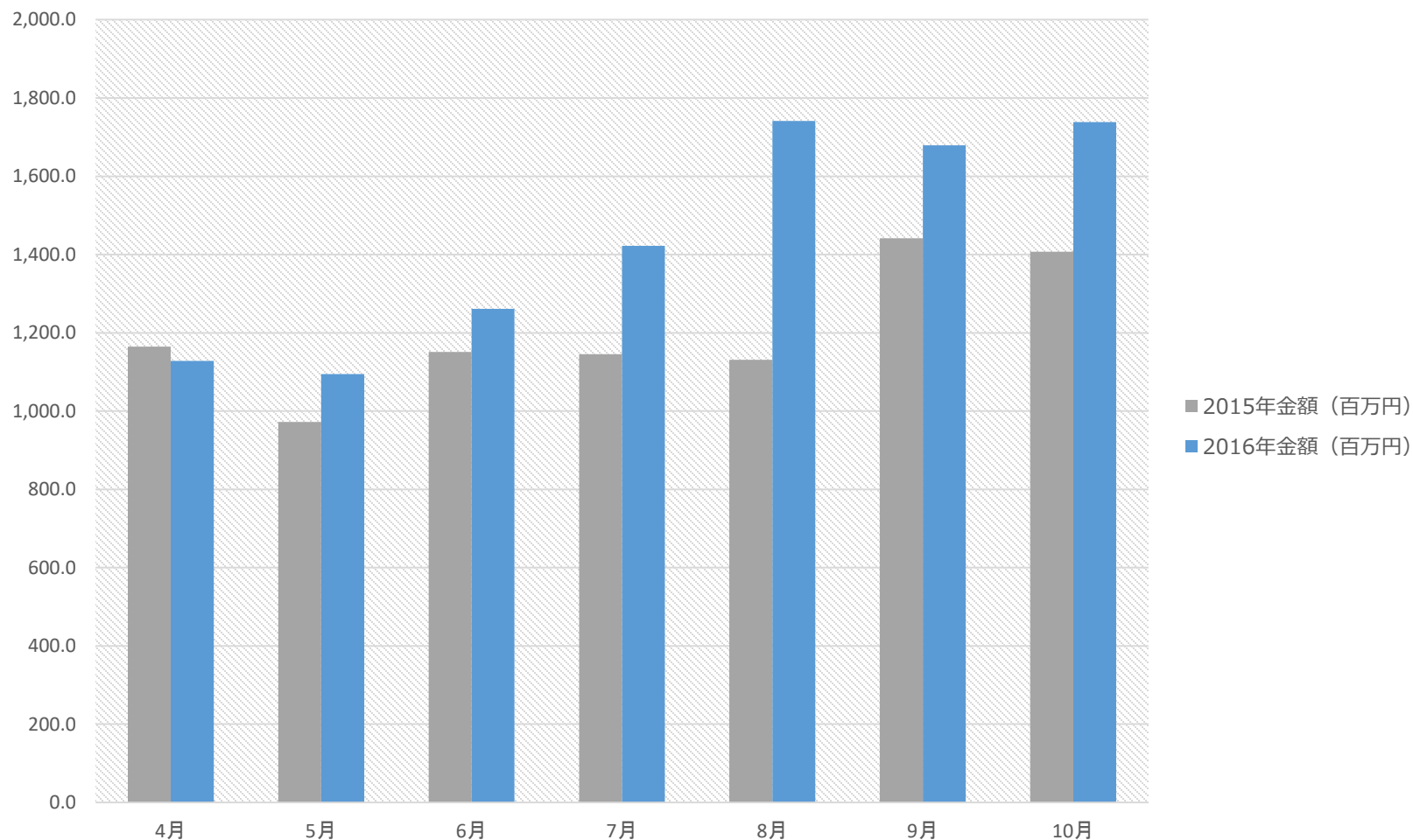
- スマートフォン関連得意先の新製品需要で引き続き一定量の売上を見込む
- 水晶デバイスの価格低下傾向が続くも、生産性向上と高価格帯製品の売上確保により、収益性を改善



携帯電話・スマートフォン向け水晶製品の生産金額の推移

(出所) 日本水晶デバイス工業会 (QIAJ) 資料より

生産金額 前年比較





前回発表（'16/5/12）から変更なし

（単位：百万円）

	'16/3 実績	'17/3 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	5,709	5,911	201	3.5%
営業利益	76	107	31	41.5%
経常利益	62	99	37	60.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	88	52	148.6%
EPS（1株当たり利益）	4.81円	11.97円	7.16円	—

※計画為替レートは1US\$=115円で試算



主要施策	上期振り返り	下期以降の取り組み
事業ポートフォリオの変革	● ハイエンドスマートフォン向け需要が伸び悩む ● 車載用電子機器向け製品の開発 ● 欧州と米国を中心にデザイン・イン活動を推進	● 車載向け生産・管理体制の構築 ● IoTの無線通信系へ拡販活動を強化・拡大 ● デザイン・イン活動を継続して推進
グローバルな競争力を持った経営体質への変革	● 資産効率化による原価低減 ● 海外営業員の育成強化	● 総合設備効率向上の推進 ● 業務プロセスの継続的改善
新コア技術の創生による製品開発の推進	● 小型・低損失の音叉型水晶振動子の開発（TFX-04C、TFX-03C） ● 世界最小ATカット水晶振動子FCX-08の量産確立	● 世界最小ATカット水晶振動子FCX-08の増産体制構築 ● 次世代への要素技術確立と新製品の開発



◎小型化と低損失性能を両立した音叉型水晶振動子

製品の特長

- ・世界最小かつ業界トップの低損失（低直列抵抗）を実現
- ・セラミックと金属蓋を電子ビームにより封止することでトップクラスの高信頼性を確保
- ・幅広い動作温度範囲が要求される車載向け認証基準のAEC-Q200に準拠



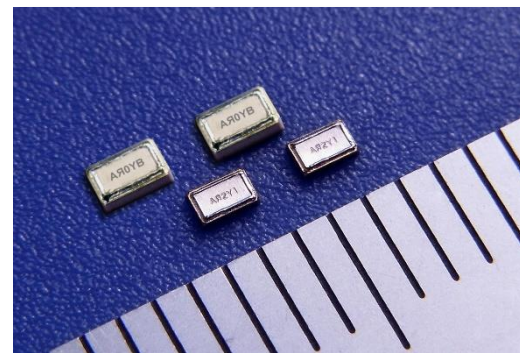
TFX-04C

1.6mm×1.0mm×0.5mm Max.



TFX-03C

2.0mm×1.2mm×0.6mm Max.



**各種機器の小型化、低消費電流化に貢献し、
今後 IoT に代表される成長市場などで高い需要を見込む**



◎世界最小1210サイズのMHz帯水晶振動子「FCX-08」

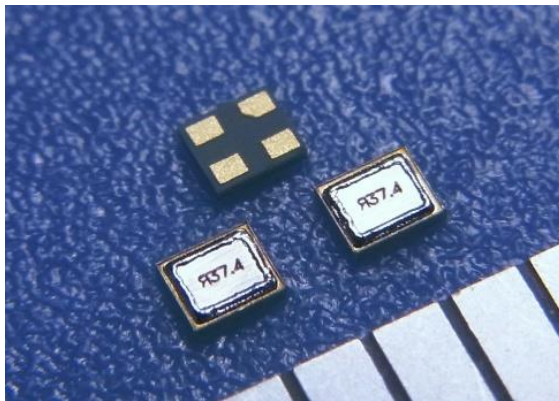
製品の特長

- ・ 高度な製品設計により、面積比60%に小型化しても1612サイズと同等な性能を実現
- ・ セラミックと金属蓋を電子ビームにより封止することでトップクラスの高信頼性を確保
- ・ 幅広い動作温度範囲が要求される車載向け認証基準のAEC-Q200に準拠



FCX-08

1.2mm×1.0mm×0.33mm Max.



**高度な製品設計により
1612サイズと同等性能を実現
超小型需要の拡大により増産へ**



◎世界最小1210サイズの音叉型水晶振動子を開発

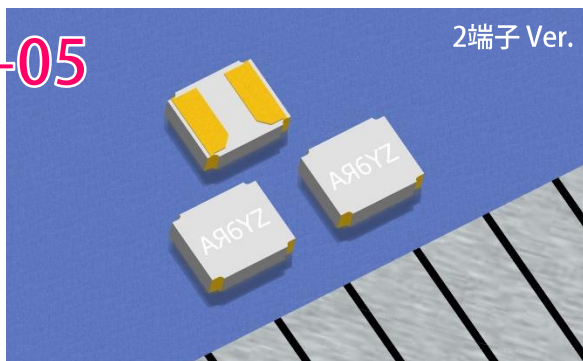
製品の特長

- ・ 世界最小サイズ 1.2 × 1.0 × 0.35mm Max.
- ・ 幅広い動作温度範囲が要求される車載向け認証基準のAEC-Q200に準拠



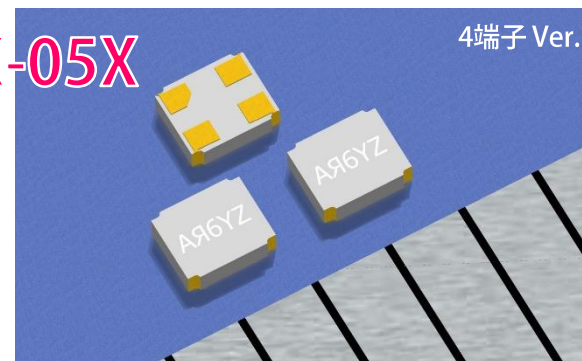
TFX-05

2端子 Ver.



TFX-05X

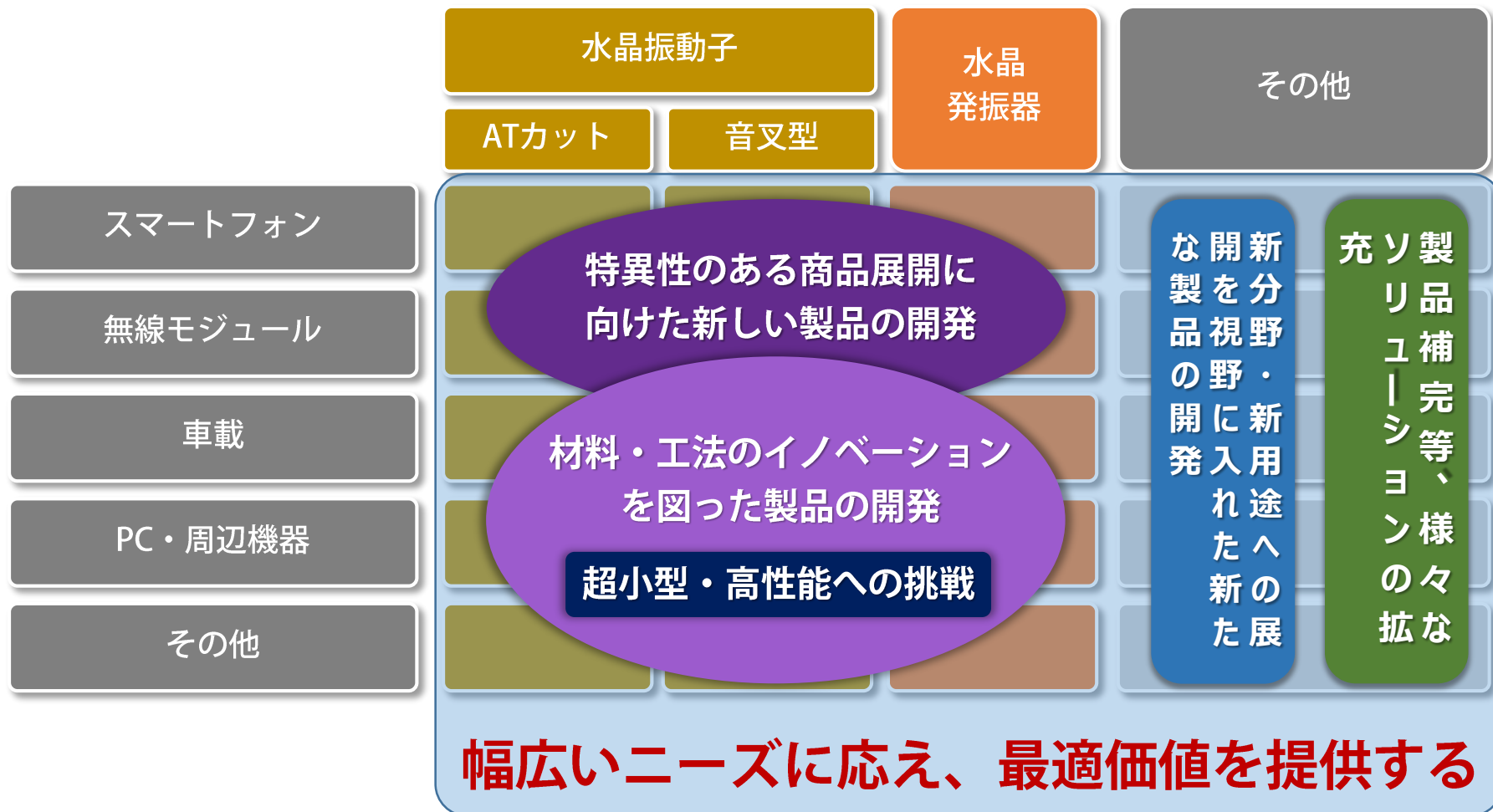
4端子 Ver.



モバイル・ウェアラブル機器など、更なる小型化需要に対応



◎ 自社開発品その他、様々なソリューションを拡充し、販売領域を拡大





◎ウェアラブル機器、医療ヘルスケアからセーフティーまで

脈波で眠気を検知するウェアラブル機器 ▶

長距離バスやトラック向けの
安全対策として活用

既に導入している企業があり、
今後は個人向けにも応用商
品の登場が期待されている



重さ約90g 運転時間9時間/1日×5日 = 45時間
の連続使用が可能

近距離・省電力・高速通信技術の進歩により、用途が拡大



◎ワールドワイドでデザイン・インへの営業活動を展開





◎総合設備効率向上を推進

良品率・時価稼働率・性能稼働率の視点で、設備の稼働効率を阻害するロスを取り除き生産性を高める



資産を効率的に稼働させて生産性を高め、原価の低減を図る



配当による還元を第一とし、配当性向20%以上（対連結当期純利益）を最低の目安とした安定的な配当を継続的に行うことに努めます

	'13/3 実績	'14/3 実績	'15/3 実績	'16/3 実績	'17/3 予想
1株当たり配当金 (年間)	3.00円	2.00円	—	1.50円	1.50円
配当性向 (対連結当期純利益)	19.7%	—	—	31.2%	12.5%

➤ 当期につきましては今後の業績等を総合的に勘案して決定させていただきます



本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。

投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願いいたします。

I Rに関するお問い合わせ先

総務部経営企画課

<http://www.river-ele.co.jp/faq/faq03.html>